

# ぱーとなーず

vol. 19

2015.10



地域とけんみん信組をつなぐ情報誌

<発行所>  
山梨県民信用組合 総合相談センター  
〒400-0032 甲府市中央1丁目18-6  
Tel. 055-233-4176

## 秋号



写真は、やまなしウッドチップ協同組合  
の工場と、古屋武仁 代表理事。

山梨県民信用組合は、  
地域の事業者の皆様を応援してまいります。

私たちは緑の募金に  
参加しています。



私たちは  
献血推進キャンペーンを  
応援しています。

皆様のベストパートナーをめざして

**YKS 山梨県民信用組合**

<http://www.yamanashikenmin.shinkumi.jp/>

# 「しんくみの日週間」活動報告

山梨県民信用組合では、皆様に信用組合を更に知っていただくための「しんくみの日週間」に合わせて、地域貢献・社会貢献活動を実施しております。本年も9月1日から7日のしんくみの日週間におきまして、清掃奉仕活動や花の種配布及び献血運動を実施いたしました。

## 清掃奉仕活動

当組合では、「しんくみの日週間」(9月1日～7日)において、本年度も40力店の全営業店周辺の公園、歩道及び歩道橋などの公共施設等を含めた広いエリアでの清掃奉仕活動を実施しました。本部及び本店では合同で、甲府駅から本店周辺までの平和通り沿いの歩道や歩道橋等の清掃に役員が取り組みました。



## 「献血運動」の取り組み

本年の「しんくみの日週間」に合わせた献血運動では、9月2日に南支店と石和支店に、9月4日には竜南支店と韮崎支店にそれぞれ献血車を配置して献血を実施しました。各店舗の職員のほか、お客様からも協力していただきました。

また、甲府地区につきましては、「ココリビル2階の甲府献血ルーム「グループ」」での献血に役員が率先して参加し、その他の地区におきましては、8月から9月に各市町村等で実施される献血に職員が協力しました。この間の当組合の献血参加者は中間集計ではありますが、158人となっております。(写真は南支店で実施した献血の様相)



## 「花の種」配布活動

しんくみの日週間中には、全営業店におきまして、「来店いただきました皆様に花の種を配布するとともに、本年度は、JR中央線の甲府駅、石和温泉駅、塩山駅、韮崎駅及び竜王駅と、富士急行線の赤坂駅におきまして、午前7時から8時までの間、乗降客の皆様には花の種を配布いたしました。



## 「富士山クリーン活動」

当組合では、毎年「しんくみの日週間」の各活動とともに、9月上旬に「富士山クリーン活動」を実施しております。

本年は9月5日(土)に役員やその家族65名がボランティアで富士山5合目から6合目の清掃活動に参加し、現地担当の学生ボランティアの方の指示に従い作業を行いました。当日、これまでのクリーン活動の中で一番天気に恵まれ、爽やかな空気の中で参加者は活き活きと清掃活動に従事していました。



富士山クリーン活動の集合写真(五号目にて)



開始式で挨拶する廣瀬理事長



## 山梨県行政書士会と連携協定の締結

山梨県民信用組合では、このたび山梨県行政書士会と中小企業等支援に関する連携協定を締結しました。

去る7月13日に当組合本部会議室で開催した締結式には、県行政書士会から砂原紘一会長、安藤洋一副会長、同会広報部の石川範子さん、同会事務局の保坂公雄事務局長が出席。当組合からは廣瀬理事長と西野常務理事が出席し、砂原会長と廣瀬理事長とが「中小企業等支援に関する覚書」に署名しました。



締結後の挨拶で廣瀬理事長は、「当組合は、地域に根差した信用組合として、地域社会の発展なくして私どもが発展することはなく、地域のために「何ができるのか」「また」「何をしなければならぬのか」を常に真剣に考えて取り組んでいます。地域の中小企業・小規模事業者の皆様への支援も、商工団体はじめ関係機関との連携はもとより、「士業」の皆様との連携・協力が不可欠であります。本日の県行政書士会との覚書締結を契機に、皆様との連携・協力をより一層深め、県内中小規模事業者の皆様との経営安定になお一層積極的に寄与してまいります。」と決意を述べました。



締結後の記念撮影(左から、当組合の西野常務理事、廣瀬理事長、県行政書士会の砂原会長、安藤副会長)

# 企業訪問

## やまなしウッドチップ協同組合

今回は、山梨市にある「やまなしウッドチップ協同組合」を訪問し、古屋武仁代表理事からご説明を受けました。

○はじめに、協同組合の事業を教えてください。

**古屋代表** 当組合は、山梨市と甲州市において、木材の製材・加工・チップ製造、素材生産などに係る4社が集結し、平成26年2月に設立しました。当組合では、県内をはじめ近隣地域から発生する間伐材や林地残材などを、木質バイオマス燃料、建材原料、製紙原料など多目的に利用できるようにするための木質チップ製造を事業内容としています。なかでも、再生可能エネルギーの一つである「木質バイオマス発電」事業に供給する「木質バイオマスチップ」を製造することを最大の目的としています。

○皆さんが協同組合を設立して木質チップ製造に取り組もうとした思いをお聞かせください。



やまなし  
ウッドチップ  
協同組合

〒405-0005  
山梨市小原東268-1  
Tel.0553-34-6110

ウッドチップ工場

〒405-0016  
山梨市大野字天神原1453-1



加工工程



木質チップ



間伐材の搬入



古屋武仁 代表理事

**古屋代表** 森林に関わる仕事をしている私どもは、森林が私たちの生活環境にもたらす大きな恩恵を強く感じていて、CO<sub>2</sub>を吸収してくれる森林を生き生きと持続させていくこと、森林の再生が特に重要な課題であると考えています。人工林などの山林はきちんと手入れをしないとすぐに荒廃していきます。樹木が生き活きと成長していくためには、間伐は不可欠ですが、輸入材等に押されて林業の競争力が減退するなかで、山林の手入れも滞るようになり、荒廃が進んでしまいました。また、間伐材も利用価値が無いとされ、間伐をするにしても切り捨て間伐が多くなってきました。山林に放置された木材を林地残材といいますが、この林地残材を放置しておく、これが腐食してCO<sub>2</sub>やメタンガスなどを発生し、森林にとっても好ましくありません。私どもは、こうした未利用間伐材をいわゆる

カーボンニュートラルの燃料資源として活用していくことを目的に、この事業をはじめることとなりました。

○カーボンニュートラルということについて、もう少しお教えてください。

**古屋代表** まず、間伐により森林の活力は増加し、光合成によるCO<sub>2</sub>の吸収力も増大します。この工場では、未利用間伐材を木質チップ燃料に、その樹皮も木質バイオマス燃料に無駄なく加工しています。この木質チップ燃料等も確かにCO<sub>2</sub>を発生しますが、これを間伐により活力を取り戻した森林が吸収してくれるわけです。森林から出た間伐材や林地残材が木質チップ燃料となり、その燃焼で放出されたCO<sub>2</sub>を森林が吸収してくれるという好循環が繰り返されます。こうした木質バイオマスの安定したCO<sub>2</sub>循環のことをカーボンニュートラルと言います。化石燃料はこの循環は期待できません。少し大きな話になりますが、私どもは、この事業を通して森林の再生や環境保全の面からも社会に貢献していきたいと考えております。

○本日は、お時間をいただき、また貴重なお話をしていただきありがとうございます。

## 山梨県民信用組合 「しんくみの集い」公開セミナーを開催

山梨県民信用組合では、8月8日(土)に山梨県立文学館におきまして、500人を超える皆様方のご参加のもと、山形新幹線の車内販売でカリスマ販売員として有名な茂木久美子さんを講師に、「しんくみの集い」公開セミナーを開催しました。

この「しんくみの集い」は、地域の皆様方と私ども信用組合の職員が一同に会し、講演会で共に学んだり、催し物等で交流を深めたりすることに、皆様に信用組合のことを良く知っていただくための取り組みであります。

初回である本年度は、全ての企業の皆様の共通課題でもありますCS(顧客満足度)を高めていくことをテーマに、実際にお客様と対応する社員の視点からのCSに関する公開セミナーとし、講師にお招きした茂木様から、「二期一会を大切に、買っていただいたお客様も、そうでないお客様も」をテーマにご講演いただきました。

ご講演では、就職に際して漠然とした甘い認識であったことや、就職後もマニュアルどおり対応してもほとんど買ってもらえず胃痛を起して仕事を休まなければならないことなど、ご自身が経験した様々な挫折や苦労などを赤裸々に語られました。疲れ切っていたある日、偶然に



講師の茂木久美子様



廣瀬理事長からのご挨拶



自分の素直な言葉や、心でお客様と接してしまっただけをきっかけに、お客様に買っていただけになったこと。その後、ご自身で努力や工夫もなされ、通常の5倍の販売を記録するに至ったこと。その原点にあるのは、「ご自身の様々な失敗や苦労によって気付かされたことであり、人々との関係で本当に重要なことは、「自分の素直な思いやりの気持ちを自分らしく表すこと」。

また、自分で選択した仕事に対して「自分らしく向き合っていくことの大切さ」。これが、「あなたにしかできない『おもてなしの心』ということ。」

茂木様のお話は、マニュアル中心の業務の中で、私たちが往々にして忘れがちになっていたCSの根幹である「思いやりの心」や、「自分らしく自分の仕事に取り組むことの大切さ」を改めて気付かせてくれました。

講演の最後に、「八月八日は大安で、末広がりの日。私は昨日からこちらに来ていますが、山形で本日、婚姻届を提出いたします。」と締めくくられた茂木様に、満席の会場から大きな拍手が沸き起こっていました。

## 「療育センターなないろ」に 寄付金贈呈

山梨県民信用組合と山梨県信用組合協会では社会貢献活動の一環として、皆様にご利用いただいております「しくみびーターパンカード」の収益の一部を「難病や障がいを持つ子供とその家族の支援」や「子供とその家族の健全育成」に合致した活動を行なっている団体に毎年寄付しております。



今年度一回目の贈呈として、甲斐市岩津の障がい児通園施設「療育センターなないろ」(松井真二センター長)に寄付金を贈呈しました。



ター長様に寄付金36万5577円を贈呈しました。同センターは今年4月に開園した未就学児から高校生までの障がい児を受け入れる通園施設で、現在の利用者は約30人。贈呈式は9月4日に同センターで開催し、当組合の廣瀬理事長から松井センター長に寄付金を贈呈いたしました。贈呈式で松井センター長は

「この寄付金は、園内の中庭に滑り台を設置するための資金に活用させていただきます。」とご挨拶されました。

イメージキャラクターの契約満了により  
表示を外しました。

## 北杜市と「あんきじゃんネットワーク事業」 協定を締結しました

山梨県民信用組合では、北杜市が市内の高齢者・障がい者・地域で孤立するおそれのある方の見守りを目的に実施する「あんきじゃんネットワーク事業」に参加するため、北杜市と協定を締結しました。

7月24日に北杜市役所で開催された締結式では、白倉市長と当組合の須玉、長坂、大泉及び武川の四支店長がそれぞれ協定書に署名し、店舗ごとに協定を締結しました。

締結式には、当組合の廣瀬理事長も出席し、協定締結後の挨拶で「当組合は、地域に密着した金融機関として、地域の皆様との絆を何よりも大切にしております。この協定締結を契機に、北杜市内の四支店を拠点として、北杜市の社会福祉施策などに今後とも積極的に協力してまいります。」と決意を述べました。

山梨県民信用組合は、地域に根差した信用組合として、引き続きこうした取り組みを推進し、地域の皆様に対する社会貢献活動を積極的に展開してまいります。



左から、武川支店 中村支店長、須玉支店 藤巻支店長、廣瀬理事長、白倉北杜市長、長坂支店 太田支店長、大泉支店 加藤支店長

Yamanashi Kenmin Shinkumi

富士山  
世界文化遺産  
記念定期積金

これからも世界の富士山とともに。

2.23倍  
「あ・じ・ざ・ん」

積立内容

- 毎月1万円から10万円まで
- 10年以上継続すると優待金利
- 解約手数料が優待金利
- 解約手数料が優待金利

## 支店紹介 山梨支店



当店は、昭和34年8月に山梨市信用組合本店として設立され、三度の合併を経て山梨県民信用組合山梨支店となり、その後、坂下支店及び山梨南支店を統合して現在に至り、店舗はJR山梨市駅より徒歩約10分の山梨市役所の隣に位置しています。現在の山梨市は平成17年に(旧)山梨市、牧丘町及び三富村が合併して(新)山梨市となったもので、このうちの(旧)山梨市に笛吹市春日居町の二部を加えた地域が当店の営業エリアとなっています。

当店の近くには万力公園があります。ここは昔、笛吹川の氾濫で人々を悩ませ続けた水難所であり、武田信玄公が整備させた水害防備林だったそうで、「万人が力を合わせ強固な堤を築けるように」との願いを込めて「万力」と名付けられたと伝えられています。公園の南端には、同市出身で鉄道王と言われた根津嘉一郎氏の大きな銅像があり、また根津家一族の居宅は、市が根津家から寄贈を受け「根津記念館」として平成20年にオープンし、多くの人々が見学に訪れています。

市内には、仏殿が国宝、庫裏が重要文化財に指定されている清白寺があり、足利尊氏が建立したと伝えられています。八幡橋近くにある窪八幡神社は、清和天皇の勅願により創建されたと伝えられていて千年を超す歴史があり、後代には武田氏をはじめ甲斐源氏の崇敬を集めた伝統のある神社です。笛吹川フルーツ公園からは甲府盆地が一望でき、その夜景は新日本三大夜景に選定されています。

当店では今後も、地域の皆様に愛される店舗を目指し、また皆様と協力して地域の発展に一層寄与できるよう取り組んでまいります。